

石塀・ブロック塀の 安全点検・安全対策

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震では、石塀やブロック塀の倒壊により歩行者が死傷する事故が発生しました。

本県でも、東日本大震災の際、数多くの石塀やブロック塀の倒壊が確認されています。

石塀やブロック塀の倒壊は、人命を危険にさらすだけでなく、震災後の避難や救助・消火活動の障害となります。

あなたの所有する 石塀やブロック塀は安全ですか？

建築基準法では、石塀やブロック塀に必要な最低限の安全基準を定めています。

頑丈そうに見えても、基準どおりに造られていなかったり、老朽化が進んでいると、地震による倒壊の危険性があります。

まずは点検、次に対策！



ブロック塀の倒壊



石塀の倒壊

○日光市ホームページ
「ブロック塀等の安全対策について」
<https://www.city.nikko.lg.jp/kenchiku/documents/20180622.html>



○栃木県ホームページ
「ブロック塀等の安全対策について」



○国土交通省ホームページ
「ブロック塀等の安全対策について」

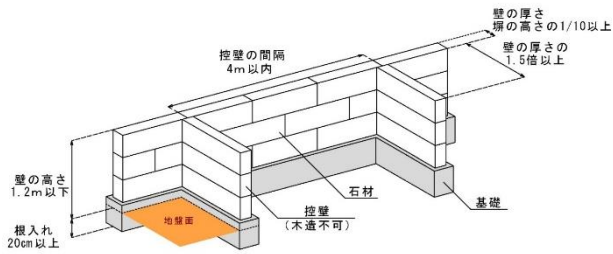


<問合せ先>

日光市建設部建築住宅課 建築指導係 TEL:0288-21-5197 / E-mail:kenchiku-jyutaku@city.nikko.lg.jp
栃木県県土整備部建築課 建築指導班 TEL:028-623-2514 / E-mail:ken-sidohan@pref.tochigi.lg.jp

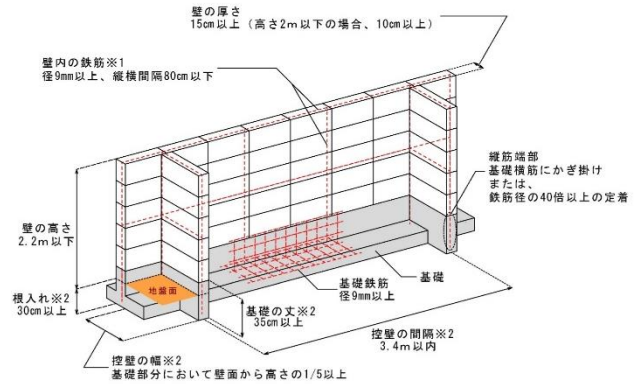
建築基準法における石塀・ブロック塀の基準は、以下のとおりです。

【石塀】



建築基準法施行令第61条による規定内容を図化したものです。なお、国土交通大臣が定めた構造方法により補強され、かつ、国土交通大臣が定める構造計算により構造耐力上安全であることが確かめられた場合についてはこの限りではありません。

【ブロック塀】



※1 壁内の鉄筋について
 ・縦筋は、壁頂および基礎の横筋にかぎ掛ける。
 ・横筋は、縦筋にかぎ掛ける。
 ・壁頂には横筋を配置する。
 ・壁端部および隅角部には縦筋を配置する。

※2 基礎及び控壁について
 ・壁の高さが1.2mを超える場合、摘要となる。

日光市では通学路におけるブロック塀等を点検した結果、大谷石の塀で危険度が高いことが確認されました。大谷石には以下の特徴があります。設置してから長期間経過しているものは倒壊の危険性が高くなりますので、ご自宅の塀の状態を必ずご確認ください。

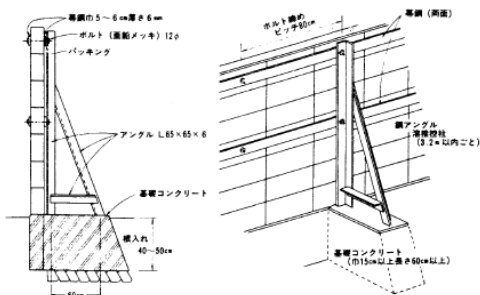
1. 塀の寿命はおよそ30年
2. ブロック1つあたりの重量は約80kgであり、倒壊した際は通行人が死傷する恐れが非常に高い
3. 雨水により劣化しやすい。また、冬場は水分が凍結し、より劣化しやすい

建築基準法施行令第62条の8による規定内容を図化したものです。なお、国土交通大臣が定める構造計算により構造耐力上安全であることが確かめられた場合についてはこの限りではありません。

石塀・ブロック塀の補強は以下のような方法があります。

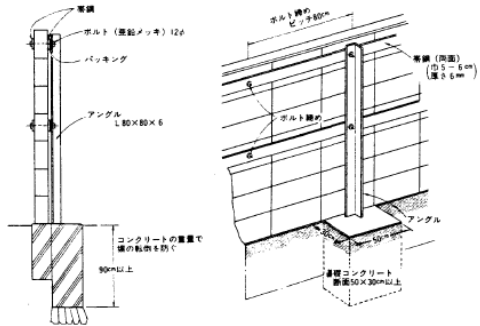
既設のブロック塀の補強方法例

(1) 鋼柱式補強方法



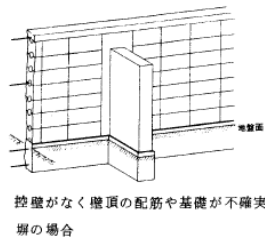
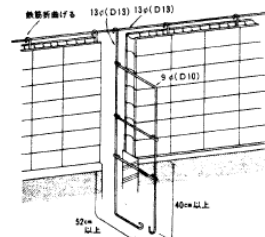
鋼材にて臨時に補強をする。この場合、鋼材は腐蝕するから3年程度を目安にして、本格的に補強するか、撤去することが望ましい。

(2) 鋼柱式補強方法

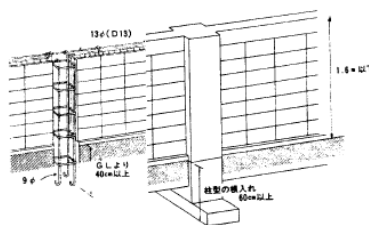


(1)の場合と同じ条件。塀の高さが1.2m以下の場合にこの方法がある。

(3) 鉄筋コンクリート造控壁式補強方法

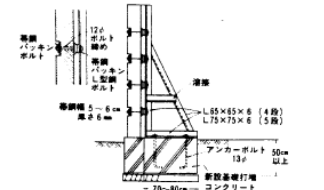


(4) 鉄筋コンクリート造柱型補強方法

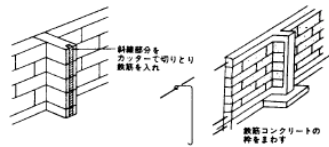


既設の石塀の補強方法例

(1) 鋼材による補強方法

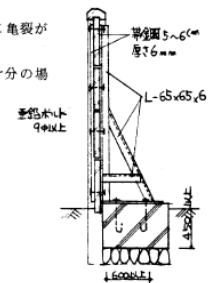


(2) 控壁がある場合の補強方法



既設のコンクリート組立塀(万年)補強方法例

コンクリート板に亀裂がある場合。柱の根入れが不十分の場合



安全なブロック塀について、詳しく知りたい方は下記のホームページを参考にしてください。
 ブロック塀大事典 (社)全国建築コンクリートブロック工業会HP

